

農作物被害対策

ハクビシンは登ることやバランスをとることが得意なので、イノシシなどの侵入防止対策のようなトタンやワイヤーメッシュ柵では、農地への侵入を防ぐことができません。ハクビシンの侵入防止には電気柵とネットの併用が有効です。

▷電気柵

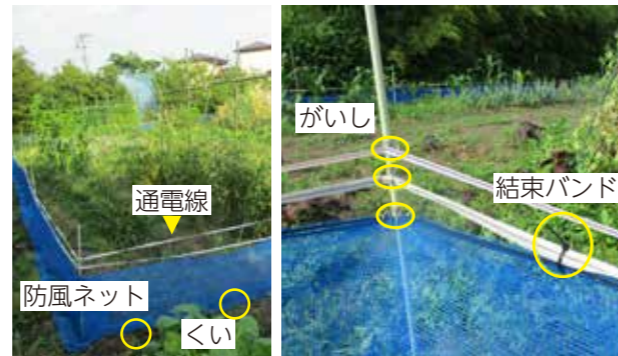
中型動物用の電気柵は通電線が4段です。各段を地面から10cmの等間隔で設置します。一番下の通電線を地面から高さ10cmの位置に張るため、下草の管理が大切です。



▲被害を受けた農作物

▷ネット併用電気柵

ハクビシンをネットに登らせて通電させる仕組みです。下部に防風ネット（40～50cm幅）を張り、上部を通電線2段（ネットから5cm間隔）にします。ネットと通電線の間は結束バンドで繋ぎ、下部がネットのためくいを打ちます。



※40～50cm幅のネットがなければ、1m幅のものを1回折り畳み使用します。

infomation

▷下記の内容に関する問い合わせ先

本庁舎農林整備課 内2262/各庁舎事業課 表郷☎④4785 大信☎④3973 東☎④2115

▷侵入防止策の購入費用助成

鳥獣の侵入を防ぐ設備の購入費用の一部を助成します。

●対象設備

電気柵やトタン板などの侵入防止設備

▷狩猟免許取得に関する費用助成

新しく狩猟免許を取得して捕獲活動を行う方に、資格取得に要する経費を助成します。

●補助対象

- ・狩猟免許試験申請手数料各種
- ・狩猟免許試験初心者講習会受講料

▷センサーカメラを設置します

侵入防止柵を設置しても被害が続く場合があります。カメラを設置することで動物の侵入経路を明らかにできますので、ご相談ください。



▷とらばさみの使用は禁止です

踏んだ動物を無差別に捕まえ大けがを負わせる危険性から「鳥獣保護管理法」により、使用は原則禁止されています。違反した場合、刑罰の対象となります。



鳥獣被害対策



◀イノシシの対策はこちら
(広報しらかわ令和元年9月号)

ハクビシンによる被害を防ぐために！

市には、イノシシに次いでハクビシンの目撃情報や被害の相談が寄せられています。そこで今回は、ハクビシンの農作物・家屋被害の対策を紹介します。

特徴



▲センサーカメラで撮影

▷形態的特徴

鼻筋に白い線がある
手足と尻尾の先端が黒い
足の裏に吸盤のような滑り止め
体長の4割以上を占める長い尻尾

▷生態的特徴

本来は木の穴で生活する
夜行性で狭い空間を好む
野菜や果物を中心に食べる
特に甘いものが好き

Point

足裏の滑り止めで、垂直の隙間や爪のつかない構造物を登ることができます。住宅に侵入するときは、床下や、電線を伝って軒下から入り込むことがほとんどです。

家屋被害対策

ハクビシンは神社や仏閣、集会所、家の屋根裏にすみつき、ふん尿による衛生面の悪化や住宅損壊などの被害をもたらします。

家屋被害がある場合は、捕獲しても他の個体が入り込み、被害を繰り返すことになるため、侵入口をみつけて塞ぐ必要があります。

侵入口が湿気対策などで隙間が設けられている場合は、金網で塞ぎます。

金網の選び方

金網がかみ切れないうように、線径が太く目合いの小さいものを選びましょう。

ホームセンターなどで売っている2cm目合いの亀甲金網がオススメです。

